様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２８６７

研究課題名（和文）映像作品の字幕翻訳に関する研究　－異文化間理解重視の言語文化教育のために－

研究課題名（英文）Research on Subtitle Translation of Visual Works: For Language and Cultural Education Focusing on Intercultural Understanding

研究代表者
保坂　敏子（HOSAKA, Toshiko）

日本大学・大学院総合社会情報研究科・教授

研究者番号：００４０９１３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、翻訳研究の「同化翻訳（目標言語の文化に合わせた翻訳）」という概念を分析の枠組みに、5つの映像作品の日本語の台詞と英語他の字幕翻訳について質的分析とテキストマイニングによる量的分析を行った。分析により、字幕翻訳により変容する要素を明らかにし、さらに、映像作品を教育利用する際の参照枠として、字幕翻訳ストラテジー（付加・削除・言い換え）、社会文化的要素、語用論レベルや文化レベル、時代などの観点を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日本の映像作品の日本語の台詞と英語等の字幕翻訳を「同化翻訳」に焦点を当てて比較分析したことにより、字幕翻訳におけることばと文化の変容の実態が浮かび上がった。これにより、「日本の映像作品を利用して自律的に日本語を学ぶ学習者が字幕翻訳を使っても一人では学べないことは何か」が明らかになった。この結果は、「このような学習者に対して言語教師は何ができるのか」という本研究の問いの答えにつながるものである。
　字幕翻訳を利用した言語教育はまだ少ない。字幕翻訳の特性を示した本研究結果は、映像作品と字幕翻訳を利用した異文化間理解重視の言語文化教育を考えるうえで、意義があるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted qualitative analysis and quantitative analysis using text mining of Japanese and English dialogue and other subtitles translations of five visual works, taking the concept of "domestication (translation adapted to the culture of the target language)" from translation studies as the framework of analysis. The analysis clarified the elements that are transformed in the subtitle translations, and also presented perspectives such as translation strategies (addition, deletion, paraphrasing), sociocultural elements, pragmatic level and cultural level elements, and the period as reference frames for the educational use of video works.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育　映像作品利用　字幕翻訳　翻訳研究　同化翻訳　異文化間理解　言語文化教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## １．研究開始当初の背景

社会のグローバル化やメディア環境の急激な変化により文化的リソースへのアクセスが容易になった現在、教室外で字幕翻訳を利用して日本の映像作品に親しみ、自律的に日本語を学ぶ学習者が散見される。このような学習者に対して言語教師は何ができるのか。本研究メンバーは、学習者が利用する字幕翻訳を分析することで、学習者が一人では学べないこと、つまり、言語教師が支援できることが浮かび上がってくるのではないかと考えた。このような観点から、本研究では、翻訳研究を枠組に、映像作品の日本語のセリフと英語の字幕翻訳を比較分析し、そこから、言語教育における示唆を得られないかと考えた。

翻訳研究の歴史は古く、起点テクストと目標テクストの等価性が重視されてきた。しかし、現在、翻訳は「起点テクストの文化と目標テクストの文化の間で行われる異文化コミュニケーション行為」とみる「機能主義翻訳理論」（藤濤 2007）が主流で、翻訳においては文化間のダイナミックな相互交渉により何らかの変容が起きるものと捉えられている。この変容を解明することで、学習者が字幕翻訳では学べないことが明らかにできるのではないかと考えた。字幕翻訳の研究はまだ数が少なく（篠原 2013）、教育への応用も、字幕翻訳活動を教育に取り入れる試み（堤 2015）などがわずかに見られる程度である。本研究メンバーは、字幕翻訳により失われてしまう言語的、文化的様相を明らかにし、ことばと文化を融合させる言語教育へと繋ぐことについて検討したが（保坂 2016）、ことばと文化の置き換えの現象までは検討しなかった。異文化間理解を目的にする場合、翻訳によって失われた要素だけでなく、何らかの改変が加えられ変容する要素にも注目する必要がある。そこで本研究は、異文化間理解重視の言語文化教育に寄与することを目標に、字幕翻訳における喪失も含む変容にまで射程を広げ、字幕翻訳により変容する言語的・文化的要素の解明を試みる。

## ２．研究の目的

本研究は、映像作品の字幕翻訳によって起点テクストと目標テクストの間で変容する言語的・文化的要素、つまり、字幕翻訳では学習者が知りえない起点テクストの言語的・文化的要素を明らかにすることを目的とする。また、起点テクストから変更された要因についても検討し、それを基に、異文化間理解重視の言語文化教育のための映像作品利用の参照枠の策定を目指す。そのために、本研究では翻訳研究を枠組みに、映像作品の日本語のセリフと英語の字幕翻訳を比較分析する。

上記の目的を達成するために、具体的には、平成 29 年度～平成 31 年度（コロナ禍により、令和 2 年度まで延長）の研究期間において、以下の点を研究課題として設定する。

(1) 映像作品の字幕翻訳において、付加、削除、言い換えの翻訳ストラテジーにより変容した起点テクストの要素について明らかにする。

(2) (1)の結果を基に、起点テクストが変更された要因を整理し、異文化間理解重視の言語文化教育における映像作品利用の参照枠の策定を目指す。

## ３．研究の方法

本研究では、各年度に段階的目標を設定し、以下のような手順で分析と整理を進めた。起点テクストと目標テクストの分析の際には、オリジナルの台詞や字幕翻訳の文字化資料を作成し、分析を行った。なお、本研究のメンバーは、研究代表者の保坂と研究分担者の島田めぐみ、研究協力者の伊藤誓子の 3 名である。

表 1　字幕翻訳分析の方法と研究経過

| | |
|---|---|
| 平成 29 年度 | ①分析対象映像作品の調査と選定<br>②映像作品の分析（パイロットスタディ）<br>アニメ『君の名は。』のオリジナルの日本語の台詞と英語の字幕翻訳の文字化資料を作成し、翻訳により変容した起点テクストの部分を分析<br>③翻訳研究・翻訳ストラテジーを調査し、分析の枠組みを検討 |
| 平成 30 年度 | ①平成 29 年度の②と③を基に、分析の枠組みを「同化翻訳」に決定<br>②「同化翻訳」を枠組に、アニメ『君の名は。』と映画『東京物語』の英語字幕における起点テクストの変容を比較分析。<br>③起点テクストと目標テクストの変容を量的に見るために、テキストマイニングを用いてアニメ『君の名は。』と映画『そして父になる』を分析 |
| 令和元年<br>／平成 31 年度 | ①「同化翻訳」を枠組に、アニメ『となりのトトロ』の年代の異なる２つの英語字幕翻訳を質的に比較分析<br>②アニメ『となりのトトロ』の年代の異なる２つの英語字幕翻訳をテキストマイニングにより量的に分析し、「同化翻訳」を枠組に質的に比較<br>③「同化翻訳」を枠組に、アニメ『君の名は。』の英語とフランス語の字幕翻訳を質的に比較分析 |

| | |
|---|---|
| 令和 2 年度（COVID-19 による延長期間） | ①アメリカの TV ドラマ『the good wife』の英語から日本語への字幕翻訳と翻案したリメイク作品の台詞について、テキストマイニングにより量的に分析し、「同化翻訳」の観点から比較 |

**４．研究成果**

(1) **パイロットスタディ（分析の枠組みを設けない分析）の成果**

平成 29 年度に、本研究のパイロットスタディとして、アニメ『君の名は。』の日本語の台詞と英語字幕翻訳を対象に、変容が起きているところについて分析した。その結果、変容が起きるのは、付加、削除、言い換えの翻訳ストラテジーが使われているところであること、また、大きく変容するのは、社会文化的要素で、中でも「呼称」の変容が特徴的であることが分かった。この結果は、ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会（Venezia ICJLE 2018）で口頭発表した。

(2) 「同化翻訳」を枠組にした質的分析の成果

①アニメ『君の名は』と映画『東京物語』に関する比較分析

平成 30 年度に、「同化翻訳」の観点から、この 2 作品の英語字幕における起点テクストの変容を分析し、比較検討した。その結果、語用論的レベルと文化的レベルの変容が大きいことがわかった。また、2 つの字幕翻訳では、発表年代の古い『東京物語』（松竹 1953）の方が、アニメ『君の名は。』（東宝 2016）より「同化翻訳」が多いということが分かった。字幕翻訳による変容は、時代に影響を受けており、字幕翻訳を扱う場合はそれを視野に入れる必要があることが分かった。この結果は、2018 年度第 22 回東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会で口頭発表し、その後論文にまとめて『東アジア日本語教育・日本文化研究　22 号』に投稿して採択された（査読付き）。

②アニメ『となりのトトロ』の２つの字幕翻訳に関する比較分析

令和元年度に、この作品に対する年代の違う 2 つの英語字幕翻訳（2001 年版と 2014 年版）を分析し、比較検討した。その結果、「同化翻訳」は 2001 年版の方により多く見られ、2014 年版は、オリジナルの日本語の意味を変えずにオリジナルのことばと文化を保持する「異化翻訳」を重視した翻訳になっていることが分かった。これは、日本のアニメが世界で受容されたことで、同化翻訳より、オリジナルに近い異化翻訳が好まれるようになったからではないかと結論づけた。この分析結果も、上述の分析と同様、変容に影響を与える要因として時代が一つの大きな軸になることがうかがえた。この結果は、2019 年度第 23 回東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会で口頭発表した。

③アニメ『君の名は。』の英語とフランス語の字幕翻訳に関する比較分析

令和元年度に、この作品の英語とフランス語の字幕翻訳を分析し、比較検討を行った。異なる言語の字幕翻訳を比べた場合、言語的レベル、語用論的レベル、文化的レベルで両言語の「同化翻訳」による変容の違いが顕著に現れることが分かった。また、その変容は、両言語ともに起きる場合と一つの言語に起きる場合があり、両言語に起きた場合でも異なった意味になっていたりしており、ことばと文化のすり合わせは目標言語によって異なることが浮かび上がった。この結果は、2020 年度第 24 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムに採択され、2020 年 8 月に口頭発表する予定であったが、COVID-19 の影響で、大会が 1 年後に延期された。

以上の通り、字幕翻訳を質的に分析した成果は、ヨーロッパ地域で開催される審査付きの国際学会の学術大会①③で口頭発表が採択され、また、②のとおり東アジア地域の学会誌で査読付き論文も 1 本採択された。字幕翻訳の分析から言語教育での利用を唱える研究は少なく、海外でも広く新規性のあるテーマとして受け入れられたものと思われる。

(3) 「同化翻訳」を枠組にしたテキストマイニングによる量的分析の成果

起点テクストの日本語の台詞と英語の字幕翻訳の質的分析を進める中で、1 時間半から 2 時間あまりの映画だと、分析データとなる起点テクストの日本語の台詞と英語の字幕翻訳の量が多く、質的分析だけでは不十分かもしれないと感じた。そこで、当初予定していなかったテキストマイニングによる量的分析を行い、客観的な視点から全体的な分析を行うこととした。

①アニメ『君の名は。』と映画『そして父になる』に関する比較分析

平成 30 年度は、上述の 2 作品を取り上げ、日本語の台詞と英語の字幕翻訳の文字化資料に対してテキストマイニングを実施した。その結果、出現頻度の高い語彙については、人称代名詞、呼称に両者の違いが多く見られた、また、字幕翻訳によって、登場人物の個性がなくなり、人間関係との様相が変わることが分かった。「呼称」と人間関係関係の変容から、字幕翻訳における変容の軸は、社会文化的要素にあることがうかがえた。この結果は、2019 年度社会言語科学会第 43 回大会で口頭発表を行った。

②アニメ『となりのトトロ』の２つの字幕翻訳関する比較分析

令和元年度は、『となりのトトロ』の 2 つの字幕翻訳（2001 年版と 2014 年版）について、質的分析と同時に、テキストマイニングによる量的分析も行った。その結果、日本語において出現頻度の高い「呼称」は、2001 年版の方が 2014 年版より変容が大きいこと、また、登場人物の関係も 2014 年版の方がオリジナルに近く、2001 年版の方が変容が大きかった。この結果は質的分析と同じもので、年代の古い字幕翻訳の方が英語への同化の傾向が強く、新しいものの方がオリジナルのことばと文化を保持する異化傾向が強いことが明らかになった。ここでも、時代が字幕翻訳の変容に影響を与える要因となっていることが分かる。この結果は、2020 年度社会言語科学会第 44 回大会で口頭発表を行った（COVID-19 により、大会は中止となったが、当該発表は、発表したものと認定された）。

③アメリカ TV ドラマ『the good wife』の字幕翻訳と翻案（リメイク作品）の比較分析

COVID-19 で 1 年延長となった令和 2 年度においては、字幕による言語間の変容についてさらに掘り下げて検討するために、当初予定になかったが、日本語から他の言語に字幕翻訳された作品ではなく、逆に他の言語から日本語に字幕翻訳された作品、さらには、他の言語の作品を日本語の作品に翻案してリメイクされたものについて分析を行うこととした。具体的には、アメリカの TV ドラマ『the good wife』を取り上げ、英語の台詞、日本語の字幕、そのリメイク版『グッド・ワイフ』の日本語の台詞をテキストマイニングにより量的分析を行った。その結果、いずれにおいても出現頻度が高かった「呼称」を見ると、字幕翻訳もリメイク版もその場の状況にあった目標言語に同化させており、社会言語的要素の変容がうかがえた。ただ、リメイク版の翻案では見られなかった三人称が、字幕翻訳では使われており、字幕翻訳には「異化翻訳」の要素が残っていることが分かった。翻訳と翻案では、ことばと文化の置き換えと目的が異なり、それが変容に大いに影響を与えていることがうかがえた。この結果については、2021 年度社会言語科学会第 45 回大会でポスター発表を行った。

以上、字幕翻訳の量的分析、並びに、他の言語から日本語翻訳された字幕や翻案されたリメイク作品の台詞のテキストマイニングによる分析は、当初予定になかったものである。言語教育を目的にこのような分析を行う研究は管見の限り見当たらず、事前審査のある社会言語科学会の大会に採択され、3 年間継続的に発表を行うことができた。

(4) 字幕翻訳の分析結果のまとめと展望（言語教育における参照枠）

以上の質的分析と量的分析の結果から、字幕翻訳の変容に関わるものを整理すると表 2 のようにまとめることができる。

表２　字幕翻訳における変容に関するまとめ

| | |
|---|---|
| 字幕翻訳に変容をもたらす翻訳ストラテジー | 付加、削除、言い換え |
| 字幕翻訳により変容する要素・レベル | 社会文化的要素、社会言語的要素、言語的レベル、語用論的レベル、文化的レベル |
| 変容に影響を与える要因 | 時代、目的 |

まず、字幕翻訳に変容をもたらすのは、付加、削除、言い換えの翻訳ストラテジーである。そして、そのストラテジーにより変容するのは、社会文化的要素、社会言語的要素、言語的レベル、語用論的レベル、文化的レベルである。そして、変容の度合いに影響を与えるのは時代と目的ということになる。

映像作品の字幕翻訳における変容に関するこの表のまとめは、字幕翻訳におけることばと文化の変容の原因と内容と背景を示すものであり、異文化間理解のために映像作品を利用する場合の授業デザインの指針となりうるものであると考える。つまり、言語教師にとっては、字幕翻訳を使っても学習者が映像作品から一人で学べないことを考える際の参照枠になるものと思われる。

字幕翻訳を協働作業で作成するような授業実践は本研究期間中に少し聞かれるようになってきたが、質的分析や量的分析に限らず、字幕翻訳の分析をもとに、ことばと文化の教育につなげようとする試みはまだない。本研究で行ったような字幕翻訳を分析したり、複数言語の字幕翻訳を比較分析したりする作業は、翻訳の際に行われた文化間の相互交渉を辿る作業である。このような活動を授業で行えば、複言語・複文化意識やその能力が育成できるのではないか。本研究の成果を基に、この問いについて検討してくのが、今後の課題である。

(5) その他：本研究の研究成果を基にしたワークショップ等の実施

本研究の期間中に、研究代表者は研究業績に記載された講演のほかに、この科研プロジェクトのテーマや研究成果に基づくワークショップの依頼を受け、下記のとおり実施した。

・2018 年 5 月 25 日　ベルギー日本語教師会 第 103 回 日本語教育セミナー　ワークショップ

「映画の字幕翻訳を介した言語文化教育」講師

・2019 年 3 月 15 日　東京外国語大学留学生日本語教育センター　2018 年度教材開発プロジェクト　公開講演会『メディア素材を活用した教育　－留学生教育における分野間アーティキュレーションの実現を目指して－』「映像・メディアを活用した日本語教育」講師

・2019 年 9 月 7 日　日本語教育の夏フェス 2019　「映像メディアを授業に取り入れるときの留意点を考えよう！　－「ことば」と「映像」に埋め込まれたステレオタイプ－」ワークショップ講師

・2021 年 1 月 16 日　2021 年 1 月 BATJ（英国日本語教育学会）セミナー　「映像作品を介したオンライン授業のデザイン　－『文化翻訳』を重視して－」招待講師

＜引用文献＞

篠原有子（2013）「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素（日本的有標性）の翻訳方略に関する考察」『翻訳研究への招待』9 号, 81-98, 日本通訳翻訳学会

堤 龍一郎（2015）「大学教育における映像翻訳と映像リテラシーの有用性についての一考察」『相模女子大学文化研究 33, 7-25

藤濤文子 (2007) 『翻訳行為と異文化間コミュニケーション—機能主義的翻訳理論の諸相—』松籟社

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>保坂敏子 | ４．巻<br>13 |
| ２．論文標題<br>映画を介したことばと文化の学びー学習者の「文化翻訳」に注目してー | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>ことばと文字 | ６．最初と最後の頁<br>42-70 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>保坂敏子 | ４．巻<br>5 |
| ２．論文標題<br>文化認識の多様性と多層性 ―映像作品から何を「日本文化」と捉えるか ― | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>第5回スペイン日本語教師会シンポジウム発表論文集 | ６．最初と最後の頁<br>17-34 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>保坂敏子、島田めぐみ、伊藤誓子 | ４．巻<br>22 |
| ２．論文標題<br>日本映画の字幕における同化翻訳 ―『君の名は。』と『東京物語』の比較分析から― | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>東アジア日本語教育・日本文化研究 | ６．最初と最後の頁<br>171-193 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>保坂敏子 | ４．巻<br>21 |
| ２．論文標題<br>映像作品における翻訳しにくい日本語－日本語非母語話者の認識に関する調査から－ | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>東アジア日本語教育・日本文化研究 | ６．最初と最後の頁<br>449-468 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　2件／うち国際学会　6件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子・島田めぐみ |
| ２．発表標題<br>TVドラマの翻訳と翻案に見ることばと文化の移し替えー英語の台詞から日本語字幕、リメイク版日本語セリフへー |
| ３．学会等名<br>第45回社会言語科学会研究大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子 |
| ２．発表標題<br>映像翻訳における言葉と文化の変容―字幕における同化翻訳から― |
| ３．学会等名<br>映像翻訳のローカリゼーション関するカンファレンス（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子 |
| ２．発表標題<br>文化認識の多様性と多層性 ―映像作品から何を「日本文化」と捉えるか― |
| ３．学会等名<br>第５回APJE（スペイン日本語教師会）シンポジウム（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子 |
| ２．発表標題<br>日本アニメの字幕翻訳ストラテジーの変化―同化的翻訳から異化的翻訳へ― |
| ３．学会等名<br>2019年東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子・島田めぐみ |
| ２．発表標題<br>日本アニメに対する英語字幕翻訳の年代による変化－日本語のセリフと複数の英語字幕翻訳のテキストマイニング－ |
| ３．学会等名<br>第44回社会言語科学会研究大会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子・島田めぐみ |
| ２．発表標題<br>日本アニメの字幕翻訳における受容化の比較分析ー文化間コミュニケーションを探るー |
| ３．学会等名<br>第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（16th EAJS International Conference）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子、島田めぐみ、伊藤誓子 |
| ２．発表標題<br>字幕翻訳に見る異文化間コミュニケーション -日本映画の同化翻訳に注目して - |
| ３．学会等名<br>2018年東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子、豊田哲也、島田めぐみ |
| ２．発表標題<br>映像作品（映画）の日本語は字幕翻訳によって何が変わるのか－日本語のセリフと英語字幕翻訳のテキストマイニング－ |
| ３．学会等名<br>第43回社会言語科学会研究大会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子 |
| ２．発表標題<br>映像作品における翻訳しにくい日本語　－ウクライナの日本語非母語話者に対する調査から－ |
| ３．学会等名<br>2017年東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>保坂敏子、伊藤誓子、島田めぐみ |
| ２．発表標題<br>字幕翻訳で失われる「呼称」の社会文化的要素 －相互理解を目指した『君の名は。』の分析－ |
| ３．学会等名<br>ヴェネツィア2018年日本語教育国際研究大会（Venezia ICJLE 2018）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| ・2021年1月16日　2021年1月BATJ（英国日本語教育学会）セミナー「映像作品を介したオンライン授業のデザイン　－『文化翻訳』を重視して－」招待講師<br>・2019年9月7日　日本語教育の夏フェス2019　「映像メディアを授業に取り入れるときの留意点を考えよう！－「ことば」と「映像」に埋め込まれたステレオタイプ－」ワークショップ講師<br>・2019年3月15日　東京外国語大学留学生日本語教育センター　2018年度教材開発プロジェクト　公開講演会「メディア素材を活用した教育－留学生教育における分野間アーティキュレーションの実現を目指して－」　講師　「映像・メディアを活用した日本語教育」<br>・2018年5月25日　ベルギー日本語教師会 第103回 日本語教育セミナー　講師　ワークショップ「映画の字幕翻訳を介した言語文化教育」 |

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 島田　めぐみ<br>(Shimada Megumi)<br>(50302906) | 日本大学・大学院総合社会情報研究科・教授<br>(32665) | |

６．研究組織（つづき）

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | 伊藤　誓子<br><br>(Ito Seiko) | | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|